

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成 21年 5月 26日

【評価実施概要】

事業所番号	2873300368		
法人名	社会福祉法人 明照会		
事業所名	グループホーム菩提樹の家		
所在地	伊丹市中野西1丁目7番3 (電話) 072-785-0109		
評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西		
所在地	川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成21年3月31日	評価確定日	2009年5月26日

【情報提供票より】(H21年3月2日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 10年 10月 18日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 3 人, 非常勤5 人, 常勤換算7.6	

(2) 建物概要

建物構造	平屋	造り
	1階建て	1~1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	86,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(250,000 円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	100 円
	または1日当たり	1,380 円		

(4) 利用者の概要(3月2日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	5名	要介護2	1名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 88.2 歳	最低	80 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	市立伊丹病院、明照会診療所
---------	---------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

・桜並木のある天神川の川沿いにある菩提樹の家は1ユニットのホームで、建物の周りが樹木におおわれ、居室を取り囲む中庭では野菜を栽培したり、四季の花々が楽しめる。平均88歳の女性が9名で共同生活を送っている。利用者の役割や特技を活かす支援を通して、お互いを認め合える関係作りを目指している。職員は手助けでなく見守るのも一つの介護という意識を持ち、ホーム内外の掃除や食事の準備等出来ることをやってもらっている。外部評価を活用し、課題の改善に努め、家族、地域、他の事業所との関係性が密になってきている。特養との連携で併設の診療所が利用でき、受診の負担軽減がなされている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	・前回評価での改善課題について、・運営推進会議開催・理念作成・家族会発足に向けた取り組み・伊丹市グループホーム交流会のスタート・夜間のみでの施錠等の改善を行った。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	・管理者が自己評価をした。昨年の外部評価を通して、多くの気づきがあった。運営推進会議の開催や無理強いしないケア等改善ができ、職員への意識付けができた。外部評価は次回の運営推進会議で報告する予定。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	・今年度から運営推進会議が開催できた。日程調整が難しかったが地域代表や民生委員に災害時の応援の依頼する等関係性ができ、家族からホームで地域の人が参加する集まりの提案や行政から認知症の相談窓口になって欲しいと依頼される等双方向の話し合いができてきた。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	・家族等へは定期的に利用者の暮らしぶり、行事案内、金銭管理報告、来訪時は最近の様子の報告やケアプランの説明をしている。月2回程度家族面談日を設け意見等が出やすい工夫をしているが、特に苦情は出ていない。来年度家族会をスタートさせ、家族等で話し合う場を作ることを計画中である。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	・普段からホーム前の道路を掃除して地域の方に挨拶したり、老人会に法人が加入して、老人会と一緒に土手掃除に参加している。幼稚園、中高生の来訪やシルバーフェスティバルに利用者の作品の展覧等地元の人との交流が行われている。運営推進会議を通して地域へ災害時の応援を依頼する等地域との連携が深まってきている。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・その人らしく日常生活が送れるよう、役割を持って生活できる支援を理念としているが、地域密着の概念は入っていない。		・事業所は地域との関係を重視して連携を計画中なので、地域密着を理念に組み込むよう望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・会議やミーティングで理念を共有している。利用者の残存能力や役割の活用による、お互いに認め合える関係作りに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・ホーム前の道路を掃除や老人会の清掃活動への参加等に努めている。幼稚園児、中高生の来訪やシルバーフェスティバルに利用者の作品を出展等地元との交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・管理者が自己評価をした。昨年の外部評価で、運営推進会議の開催や無理強いしないケア等改善ができた。評価結果は次回の運営推進会議で報告する予定。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・今年度から運営推進会議が開催できた。高齢福祉課、民生委員、地域住民、家族代表、法人代表、管理者が出席。日程調整が難しかったが地域代表や家族からグループホームを知ってもらう為看板を立てこと、ホームで地域の集まりを行うこと等の提案が出た。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>・事務手続きだけでなく担当者と個別に相談する関係作りができています。地域包括支援センターからの見学も行われている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・毎月定期的に行事案内、金銭管理報告、利用者の暮らしぶりについて報告等をしている。家族等来訪時は最近の生活の報告やケアプランの説明がなされている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・月2回程度家族面談日を設け意見等が出やすい工夫をしているが特に苦情は出ない。家族会はない。</p>		<p>・家族会をスタートさせ、家族等で話し合う場を作ることを検討中である。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・法人内の異動はあるが、他の職員がカバーしたり、異動後も前職員が顔を出して利用者は特に混乱しない。</p>		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・内部研修は職員に希望を聞いて、月例会時に実施している。外部研修は交通費を補助し、参加しやすくしている。資格取得も勧められている。身体能力が衰えた場合のケア方法等職員で話し合っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・今年度からグループホームの交流会を立ち上げた。管理者、ケアマネジャーが参加して、勉強会やサービス向上に向けての話し合いを行っている。基盤ができれば職員参加も考えている。		・職員の交流が進むよう努められたい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・入居前家族と一緒に見学し、納得して入居できるよう努めている。入居当初は家族に協力を求めている。役割を持ってもらい、早くホームに馴染むよう支援をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	・人生の先輩として、今までの経験から学ぶことが多い。遠慮されないよう職員が声かけして、心を開いてもらうよう努めている。利用者から無理をしないよう体を気遣ってもらうこともある。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>・入居時に生活歴を家族に書いてもらったりセンター方式で思いや意向の把握に努め、プランに反映している。自らの提案は少ないので、いくつかの選択肢の中から選んでもらっている。</p>		
<p>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>・計画作成者が検討して原案を作り、カンファレンスで他の職員の意見を求める。担当者は必要と気付いたことを報告する。又訪問看護師や管理栄養士にも意見を求めることもある。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>・定期的には6ヶ月毎、特変事はその都度見直している。個人ケースに職員が日々の気づきを記入して、見直しの材料とし、変化をプランに反映している。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>・併設母体施設診療所以外の受診でも、家族の要望があれば職員が同行対応している。また併設サービス間での顔馴染みを深めるため利用者の交流もあり、喫茶コーナー利用も考えている。今後は、ホームを終の棲家と望む利用者、家族に対しての対応の検討を考えている。</p>		<p>・最期までホームでと望まれる利用者、家族の気持ちに添えるべく検討を望みたい。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>・利用者、家族のかかりつけ医の希望を重視しており、家族が同行できない時は職員が対応している。母体施設診療所主治医においては、随時受診可能である。他診療科においても往診体制が整備されている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>・入居時にホームの体制、できる対応について十分説明し納得してもらっている。終末期の対応については、個別の要望に添って家族と早めに話し合っている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>・個人情報保護等は全職員に徹底するよう努めている。プライバシーについては他の利用者への配慮に努めつつ、時々に応じた個別の声かけのタイミングに注意している。家族に関する話題については特に配慮している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>・無理強いほしくないことを原則としているが、好きなことややりたいことを促すような声かけに努めている。家族の協力を依頼することもある。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>・主食、汁物の調理、併設厨房から配食される副食の盛り付け、後片付けまで利用者と一緒にやっている。食事全般の作業を利用者と共同する日も週1回設けている。みんなで食事を一緒にしながら、季節のうつろいや食材について会話を楽しんでいる。</p>		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>・毎日の入浴希望など要望に添うよう努めており、無理強いはしていない。自分使用の石鹸やシャンプー等好みのものを使用している。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>・毎日の外気浴、日曜日の買い物や散歩など個々のペースでの支援や、絵を描いたり、習字を楽しんだり、また複数人での共同作品作成と個々の楽しみの場면을支援している。</p>		
25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>・母体施設の行事参加はもちろんのこと、地域の行事にも、希望者だけでなく全利用者に出来るだけ外に出る機会として、声かけの工夫に努めている。</p>		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>・利用者の中には居室の戸締りをしている人もいる。玄関は夜間以外施錠していない。家族にはリスクも含め理解をしてもらっている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>・母体法人及びホーム独自の防災訓練を行っている。スプリンクラーは今年度設置予定である。今後運営推進委員会で、地域の協力体制を要望していく予定でいる。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>・利用者の好みや状態に併せた調理形態をとっている。水分摂取量に関しては特にチェックしていないが、比較的少ない人には、随時好みの飲料を取ってもらうよう声かけている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・リビングからは手作り野菜や季節の花が植えられた中庭、玄関前に広がる木立が見渡せ四季の彩りが身近に感じられる。中庭を囲んで廊下があるため、明るく開放的に感じられる。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・永年使い込まれた家具や身の回りの日常品が、その人なりに配置され日々様子がうかがわれる。趣味の作品を飾り、楽しみとされている人もいる。</p>		

 は、重点項目。